



小山悦子、ステップスギャラリー四度目の展覧会である。小山がステップスで個展を開催するのは、最早定番となってきた。今回、いつも通りに大型、小品と、小山の作品のサイズはバラエティに富んだが、作風は前回に比べて大きく異なってきた。

作品のタイトルを見れば分かるように、《バラ》《薔薇》《アルファ》《オメガ》《アルファとオメガ》《不可知の人》と、一つの世界を形成している。バラと薔薇、アルファとオメガという、本来は一体のものを取って対立させ、この揺らぎから大きな世界を導き出しているといえよう。

不可知とは「知ることができない領域」という意と「思い図るだけで無駄な事」という二つの意味があるが、ここでは思い図るだけで無駄な事だからこそ向き合わなければならないという、よりポジティブな決意が込められている気がする。無駄に対する挑戦である。

どの作品であれ画面に目を投げると、二項対立を乗り越えることが前提であり、そこから始まって、次の次元に向かっていこうとする意思が感じられる。この高い意識はこれからも次々と実現し、更に次の挑戦を見出して、それを乗り越えていこうという意欲に満ち溢れているのである。

